

説教題：「信仰声明、第7項：わたしたちは主イエス・キリストの人としての再臨を信じる」

鍵となる聖句：

ヨハネの福音書 14章 2-3節 – 「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。³わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのものと迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」

ヨハネの手紙 第一 3章 3節 – 「キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

キリストはよみがえられました！

先月の私のメッセージで聞いたように、多くの教会では、クリスチャンは復活祭の日曜日である復活の日の後数週間、この「キリストはよみがえった」という挨拶を使い続けます。これはイースターシーズンであり、多くのクリスチャンはイースターの日曜日から昇天の日まで、キリストの天への昇天を記念するキリスト教の暦の日である昇天の日までこの挨拶を使い続けます。さて、キリスト教の暦では、今週の木曜日は昇天の日です – イースターの 40 日後。つまり、イースターシーズンの終わりに近づいているということです。先月行ったように、今日のメッセージのメインピックである私たちの教会の信仰告白の第7項に移行する方法として、キリストの昇天に簡単に焦点を当てたいと思います。この項は、イエス・キリストが御自分の民のために個人的に再臨されることに対するわたしたちの信仰を宣言しています。

使徒の働き第1章のキリストの昇天についてのいくつかの節を読みましょう。先月の最後の説教で、私は皆さんのために、これらの聖句のいくつかを読みましたが、全体の話ではありませんでした。

使徒の働き 1章 1-3節 – 「テオピロよ。私は前の書で、イエスが行ない始め、教え始められたすべてのことについて書き、²お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。³イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。」復活後の 40 日間、イエスは時折、弟子たちに御姿を現され、「神の国に関することを話されました」。

そしてここに、これらの 40 日の最後に起きた事があります。使徒の働き 1章 9節 – 「こう言うてから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。」そして、雲が彼らの視界からイエスを連れて行きました。これが私たちがキリストの昇天と呼んでいるものです。

そして、イエスが少し前に彼らに話されたそれらの言葉は何ですか?イエスは再び彼らに福音を地の果てまで広めるように命じていました。

使徒の働き 1章 4-5 節 – 「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。⁵ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

その聖霊によるバプテスマは、10日後の使徒の働き 2章のペンテコステの日に、聖霊が上の部屋に集まったクリスチャンに降るときに起きます。

使徒の働き 1章 6 - 8 節にある、イエスの弟子たちへの最後の言葉を続けて見ましょう。 – 「ここで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」⁷イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。⁸しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けません。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります

6 節で、弟子たちはまだイスラエル王国の回復を期待していることに、気づきます。ユダヤ人は、王国を再建するメシア、ダビデの子の到来に関する旧約聖書の預言の成就を期待していました。イエスのミニストリーは、それらの預言を成就するプロセスを開始しました。そして今、弟子たちはそれが次に起こるかどうかが尋ねています。実際、イエスの返事は非常に興味深いものです。イエスは彼らに、王国の回復の時期は、彼らが知るためのものではないと言います。イエスは、彼らにそれに集中してほしくない。イエスは、弟子たちが人類のための神の贖いの計画の次の章に集中することを望んでおられます。イエスは彼らに、聖霊が彼らに臨むまでエルサレムで待つように言い、それから彼らはエルサレムとユダヤから地の果てまで彼の証人になるでしょう。それが、イエスが弟子たちに与えられたべきことであり、教会は今日も続いています。先月、私はマタイの福音書 28 章の大宣教命令を引用しましたが、そこではイエスは弟子たちにすべての国の弟子を作るように言われ、バプテスマを受け、新しい弟子たちにイエスのすべての戒めを守るように教えました。私たちはその任務を受け継いでおり、それが今日の教会の主な仕事です。

使徒の働き 1章 9-11 節を読みましょう – 「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。¹⁰イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。¹¹そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

基本的に、OIC 信仰声明の第7項に関する今日の説教のトピックです：イエスの再臨、イエスの民のためのイエスのこの地への人として再臨。イエス御自身が戻ってきます…直々に…イエスが離れたと同じように：雲に包まれて。イエスは雲に包まれて戻って来られます。

これはメシア的な概念です。実際、それは神の概念です – 雲に包まれて遣って来ます。これは、旧約聖書から引き出していますが、それはイエスの有名な「オリーブ山の談話」と十字架刑前の裁判場面の両方で話されたことです。

マルコの福音書 14 章 61-62 節、サンヘドリンの前で行われたイエスの裁判の時です。読みましょう – 「しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」⁶²そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」

天の雲と一緒に来る。イエスはダニエル書 7 章 9-14 節をほのめかしています。私は今年の 1 月 1 日の説教でこれを詳細に説明しました。そして皆さんが、それをもう一度見ることをお勧めします - 皆さんは、私たちのウェブサイトで見つけることができます。サンヘドリンでの裁判で、そこに集まったユダヤ人の指導者たちは、マルコの福音書 14 章で次の 2 節で、イエスがこのフレーズをご自身に帰することによって神性を主張していることが分かりました。
[説教では語られません: マルコの福音書 14 章 63-64 節 – 「すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「これでもまだ、証人が必要でしょうか。⁶⁴あなたがたは、神をけがすこのことばを聞いたのです。どう考えますか。」すると、彼らは全員で、イエスには死刑に当たる罪があると決めた。]

イエスは戻って来られます。それがこの 2,000 年間の教会の希望でした。さて、今日のメッセージの焦点である信仰告白の第7項を読みたいと思います。実は、第7項と第8項はどちらも私たちの将来の期待に関係しているので、来週のメッセージで第8項について話します。

第7項:

主イエス・キリストの再臨を信じ、この“幸いなる望み”こそ、個人の信仰生活とその働きに重要な意味を与える、と信じる。ヨハネによる福音書 14:2-3、ヨハネの手紙一 3:2-3。

主イエスの人としての再臨 – 戻ってくるのはまさに人としての主です。これは、イエス・キリストの霊的または目に見えない再臨ではありません。それは、弟子たちが天国に行くのを見たのと同じ体を持つ同じ人になるでしょう。

第8項:

死者はすべてよみがえり、キリストにある死者は、主とともに永遠の祝福と喜びを受け、神に反する者は、さばきと永遠なる苦しみの刑罰を受ける、と信じる。テサロニケの信徒への手紙 – 4:13-18、ヘブライ人への手紙 9:27。

来週は、信者と不信者の最後の裁きと永遠の運命を見ていきます。それは不快なテーマかもしれませんが、来週それを見ていきます。

第7項に戻りましょう。ここに、主イエス・キリストの人としての再臨についての声明があります。そして、これは私たちが持っている「祝福された希望」と呼ばれています。クリスチャンは、私たちの主の再臨を期待しているので、これは私たちが今、人として生きる方法に非常に重要な影響を及ぼします...私たちの個人的な生活に重要な影響を与えます。そして、私たちがどのように奉仕するかについて – この祝福された希望は私たちの奉仕に影響を与えます。福音書と書簡には、人々に仕え、教会に仕えることがいかに重要であるかが書かれています。

第7項は、ヨハネの福音書 14 章 2-3 節とヨハネの手紙 第一 3 章 2-3 節の 2 つの聖句を引用しています。

ヨハネの福音書 14 章 2-3 節 – 「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。³わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」

イエスは弟子たちに、御父の家に行くと言われました。イエスは天に行き、そこにいる間、彼らのために場所、住む場所を準備します。それからイエスは彼らに、彼が彼らの所に戻ってきて、彼らをイエス御自身に受け入れると告げます。イエスは私たちのために戻って来てくださいます。そして、私たちはイエスと一緒に住むでしょう – 私たちはイエスと一緒にいるでしょう。

ヨハネの手紙第一 3 章 2 - 3 節を見ましょう – 「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。³キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

ここでの 3 節は、クリスチャンの生き方に重要な影響を与える私たちの祝福された希望について私たちの信仰声明が言っていることに関連しています。後でその考えに戻ります。

2 節を見てみましょう。それは、私たちは神の子供であり、イエスが戻ってきたとき、つまりイエスが「現れる」とき、「私たちは彼をありのままに見るので」彼のようにになると言っています。これが、多くのクリスチャンが天国において、イエスが復活した後に持っていた体とよく似た体があることを期待している理由の一つです。この考えは、新約聖書の私のお気に入りの章の 1 つであるコリント人への手紙 第一 15 章で読んだいくつかの節と、ブルース牧師が先週ビデオメッセージで説教された章によって強化されています。

その章の終わりに向かって読んだものは次のとおりです。 コリント第一 15:51-53 節 - 「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。⁵² 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに です。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。⁵³ 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。」

これは「最後のトランペット」で生じます...最後の時に。それから、死者は私たちが今持っているものとは異なる体でよみがえります。将来、私たちは朽ちることのない体を持つでしょう。しかし、これは来週、私たちの人体の復活について話し合うときのトピックです。これについては来週詳しく説明します。

今日、私たちの目の前にあるテーマは、キリストの再臨です。これを扱う聖書のいくつかの重要な箇所があり、いくつかは短く、いくつかは長いです。黙示録の多くは、キリストの再臨とその支配など、終わりの時の出来事を扱っています。マタイの福音書 24 章はもう一つの重要な箇所であり、私は次の数分間その章に焦点を当てるつもりです。マタイ 24 章には、イエスが十字架につけられる数日前に、エルサレムの町の外のオリーブ山で弟子たちと交わされた話が記されています。この話はオリーブ山で行われるため、私たちはそれを「オリーブ山の談話」と呼んでいます。彼は弟子たちに、現在からキリストの再臨までの間に彼らが見ることができるものの種類の概要を与えます。主は、艱難や戦争、偽預言者、そして主が再臨する前に起こるその他の出来事について言及しています。

何年にもわたって、さまざまな聖書解説者がさまざまな方法でマタイ 24 章にアプローチし、出来事の時間枠と、私たちの周りの世界でさまざまなことが起こっているのを見るときにここで説明されている出来事が何を指すかについて、さまざまな視点でアプローチしてきました。今日は、これらの異なる視点については説明しません。ここで見られる聖句のいくつかを強調し、キリストの再臨を待つ間、私たちがどのように生きるべきかについて私たちが学ぶべきいくつかの教訓を取り上げたいと思います。

マタイの福音書 24:1-2 - 「イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。²そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積み残されたまま残ることは決してありません。

弟子たちは神殿の建物を賞賛していますが、イエスはこれらの建物はすべて完全に取り壊されると答えました。それから彼の弟子たちは彼に質問をします。

マタイの福音書 24:3 - 「イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

弟子たちは、彼の再臨に関連する出来事の時間枠を知りたがっているのです。彼らはイエスにその再臨のしるしと時代の終わりのしるしが何であるかを尋ねます。イエスはイメージの混合で答えますが、最初に注意すべき言葉でもって答えます。

4-5節 – 「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。⁵わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。」

イエスが最初にするのは、人々が誤った主張をすることについて、イエスの信者に警告することです。西暦1世紀と2世紀には、自分こそがメシアであると主張した多くの人々がいました。教会の歴史を通して、私たちはまた、神を支持すると言って、偽の主張をするさまざまな偽教師を見てきました。イエスはそのような人々について弟子たちに警告されます。

イエスは、彼の弟子たちに続けます。マタイの福音書 24:6-7 – 「また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。⁷ 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。」

戦争と戦争の噂... 飢饉と地震 – これは、聖書の預言者がある時代の終わりと別の時代の始まりを説明するために使用した典型的な言語です。そのようなしるしはメシアの再臨に先行します。

マタイの福音書 24:9 – 「そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」

艱難 – イエスはこの言葉を数回使用して、私たちが福音を広めるときに、反対する出来事に直面することを示しました。私たちは福音を国々にもたらしますが、それぞれの場所にはメッセージに反対する人々がいます。

マタイの福音書 24:14 – 「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」

イエスは私たちにすべての国の弟子を作る任務を与え、過去 2,000 年の間に、福音のメッセージが地球の隅々に広がるのを見てきました。ここに終わりが来るというしるしがあります: 福音がすべての国に宣べ伝えられたとき。福音がすべての国に宣べ伝えられたとき。

15 節から 28 節には、さらに恐ろしい出来事が記されています。今日はこの箇所を読みません。15 節は、いわゆる「荒す憎むべき者」について語っています。多くの聖書解説者は、これは西暦 70 年のローマ軍によるエルサレムと神殿の破壊への言及である可能性があることを示唆しています。それは良い提案だと思います。

[*説教で話さない*: マタイの福音書 24:15 – 「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒す憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)」]

次にマタイの福音書 24:29-31 を見ましょう – 「だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。³⁰ そのとき、

人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。³¹人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。」

30節で、「人の子のしるしが天に現れ、すると、地上のあらゆる種族は悲しむ」ことに注目してください。人の子が、この地に戻ってきています...そして、この地の全ての部族が嘆き悲しむというこの声明は、おそらく、福音のメッセージを拒否したすべての人々が、贖いの機会を失ったために嘆き悲しむことを意味します-彼らは今や裁かれるでしょう。

30節は、人の子が天の雲に乗って来ていることに言及しています-その言葉はダニエル書7章から来ており、イエス・キリストがこのフレーズを参照し、裁判でそれを自分自身に適用したので、今日の説教の前半で皆さんに言及しました。31節で、数分前に読んだコリント人への手紙 第一 15章の聖句と同じ大きなラッパの響きがあることに注目してください。ここでは、天使たちが地の果てから神の選民を集めることが書かれています。

これは、信仰声明の第7項で言及されている最初の重要な節に耳を傾けます。ヨハネの福音書 14:2-3 - 「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。³わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」

これは選民の運命です...これは、イエスが忠実な信者になさった約束の成就です。

オリーブ山の談話に戻って、イエスが次に何と言われるか見てみましょう。マタイの福音書 24:32-33 - 「いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。³³そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」

そして 42節 - 「だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。」

33節 - 私たちは、キリストがすぐそばにいてくださることを認識しなければなりません。彼はもうすぐここにいます。

42節 - 主の再臨はいつでも起こり得るので、私たちは警戒しなければなりません。

マタイの福音書 24章を何度も読み、教会の歴史と人類の歴史を観察した後、私たちはあらゆる種類の戦争や飢饉、災害やパンデミックを見てきたように思えます。また、ほぼすべての世代のクリスチャンが、キリストの再臨が間近に迫っていると感じていることにも気づきました。はい、確かに、それはいつでも起きる可能性があります...そして、私たちはイエスがいつでも戻ってくださることを期待して生きるべきです。

イエスはマタイの福音書 24 章を、準備ができていない怠惰な僕とは対照的に、主人の帰還の準備ができていた忠実な僕であることについての小さなたとえ話で締めくくっています。それからマタイの福音書 25 章には、さらに 3 つのたとえ話があります - それらはすべて、主人が戻る準備ができていたことについてです。なぜならあなたが準備ができていない場合、あなたは彼が戻ったときに主人に加わるチャンスを逃すかもしれないからです。

準備をしてください。警戒してください。忠実でありなさい。クリスチャンでありなさい。キリストに信仰を置き、あなたの創造主と正しい関係を築いてください。

次に、時代の終わりや古い秩序の破壊について論じている聖書の別の箇所に移りたいと思います。

ペテロの手紙 第二 3 章 8-9 節 - 「しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。⁹主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

神の時は、私たちの時とは異なります。イエスが使徒たちに福音をすべての国に広めるように命じてから 2000 年後、イエスは遅いと思いますか? イエスは遅くはありません。彼は忍耐強いのです。イエスは、すべての人が悔い改めることを望んでおられます。

ペテロの手紙 第二 3 章 10-13 節 - 「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。¹¹このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。¹²そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。¹³しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」

13 節 - しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。黙示録 21-22 章は、これについて議論しています。そして私は来週それについて読みます。

11 節をもう一度見ましょう - 「このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。」
聖い生き方と敬虔

12 節をもう一度見ましょう: 「…神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません…」神の日が来るのを早めるとは、どの様な意味でしょうか? 恐らく、聖く、そして神に栄光を返す生き方。恐らく、大宣教命令を果たし、より多くの人々を神の国に連れて

行くことによってでしょう。神が私たちに望んでいることを行うことで、なぜかキリストの再臨を早めることができるようです。

本日のメッセージは終わりです。ペテロの手紙 第二 3 章 11 節でもう一度その質問を強調したいと思います- 「このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。」

私たちは、どの様な種類の人になるべきでしょうか？

信仰声明の第 7 項には、キリストの再臨という祝福された希望が、わたしたちの生活と奉仕に影響を与えると書かれていることを思い出してください。将来何を期待するかを言われたことを考えると、私たちは今どのように生きるべきでしょうか？

聖なる生活を送る...神に栄光を返す生活。

福音を広めるために皆さんの役割を果たしてください - コリント人への手紙 第一 12 章は、教会を築くのを助けるために私たち一人一人が霊的な賜物を与えられたと言っています。教会の弟子となる仕事にあなたの役割を果たしてください。

警戒してください。忠実でありなさい。主が戻られたときに主にお会いする準備をしてください。

今日のメッセージを、使徒パウロが最後の手紙に書いた忠実な助手テモテへの言葉で締めくくりたいと思います。テモテへの手紙 第二 4 章 7-8 節 - 「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。⁸今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

パウロが主から受けることを期待している特別な報酬があります。そして彼は、私たちの誰もがそれを手に入れるかもしれないと言います。これは、「キリストの現れを愛した」すべての人に贈られる特別な賞です。あなたは主の出現、主の再臨を楽しみにしていますか?もしそうなら、あなたに特別な報酬があります。私たち一人一人がキリストの現れを楽しみにしており、私たち一人一人が敬虔な奉仕の生活を送り、主に会う準備ができていることを祈ります。

皆さんに神の祝福がありますように。